

新たな外国語

意味も分からない外国語の文章を丸暗記する苦勞もあつたが、それが礼拝の手伝いをさせてもらう条件であつたので、その是非は追求せずに素直に覚えた。しかし、外国語のフレーズを覚えることで、得をするということもある。そのことを知っ



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 6

たのは、小学校低学年の時だった。祖父の町で従兄弟たちと共に市営プールに行つたことがそのきっかけとなつた。

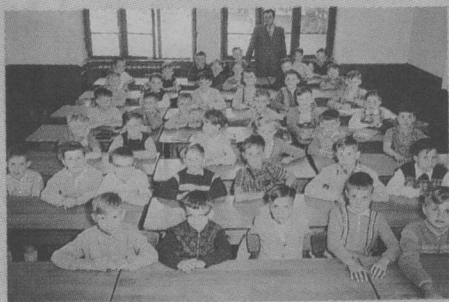
その町には米軍基地があつた。祖父の町で従兄弟たちと共に市営プールに行つたことがそのきっかけとなつた。

兵隊を相手に戦略的な活動

く、ガラスの瓶に入つていて、値段には必ず瓶代も含まれていた。飲み干して、買ったところに戻したら、瓶代のお金が戻ってくる仕組みである(今はドイツもほとんどペットボトルとなつているが、スーパードケース買

空になった1ケースを返せば瓶代は取られない)。さて、当のアメリカの兵隊たちの後半で、ソフトドリンクはペットボトルではなく思つていたか、帰るとき

型(ギムナジウム)の学校教育制度において外国語教育は5年生から始まる。つまり、外国語が必修科目となるのは、2つ目の学校に進学してからなのである。私はその時初めて自分の将来の進路について意思を表明した。進学先の学校(「ギムナジウム」)には英語が始まるコースもあつたが、「神父になりた



ギムナジウムの教室で。4列目の左から2人目が筆者(59年)

する時は、昔と同様、

「May I have your bottle, please」といふ短いフレ

の伝統的な、いわゆる複線